

フィジー国ジョン・ウサマテ保健医療サービス省大臣の国立保健医療科学院訪問について（2015年10月3日～10月10日：うち本院5日 午後）

フィジー国では、糖尿病や循環器疾患などの生活習慣病の有病者が近年急激に増加しており、その予防対策の推進が重要な政策課題となっています。特に、生活習慣病の早期発見ならびに健康診断・保健指導等の体制が十分に構築されていないため、フィジーの状況を踏まえた保健体制の整備が強く求められています。このような背景のもと、今回、日本における生活習慣病対策のノウハウを学ぶために、フィジー国のウサマテ大臣とフィジー保健医療サービス省の生活習慣病対策責任者のトゥカナ氏が来日されました。



【大臣と新村院長の懇談 院長室】

10月5日の来院の際には、本院で実施している生活習慣病対策に関する人材育成研修と研究内容等について説明を受けるとともに、本院の新村院長とこれからのフィジーの生活習慣病対策の方向性について懇談がなされました。

併せて、10月9日にJICA本部で開催された生活習慣病対策セミナーでは、ウサマテ大臣の基調講演に加えて、本院の曽根次長より日本における生活習慣病対策の概要の紹介がなされました。

現在、JICAが実施しているフィジー国での生活習慣病対策に対する技術協力事業に対して、日本の経験とスキルを役立てるために、本院が専門的なアドバイスを提供しプロジェクトの推進を支援しているところです。



【ウサマテ大臣ならびにトゥカナ氏との集合写真 玄関ロビー】